



土湯こけしの誕生

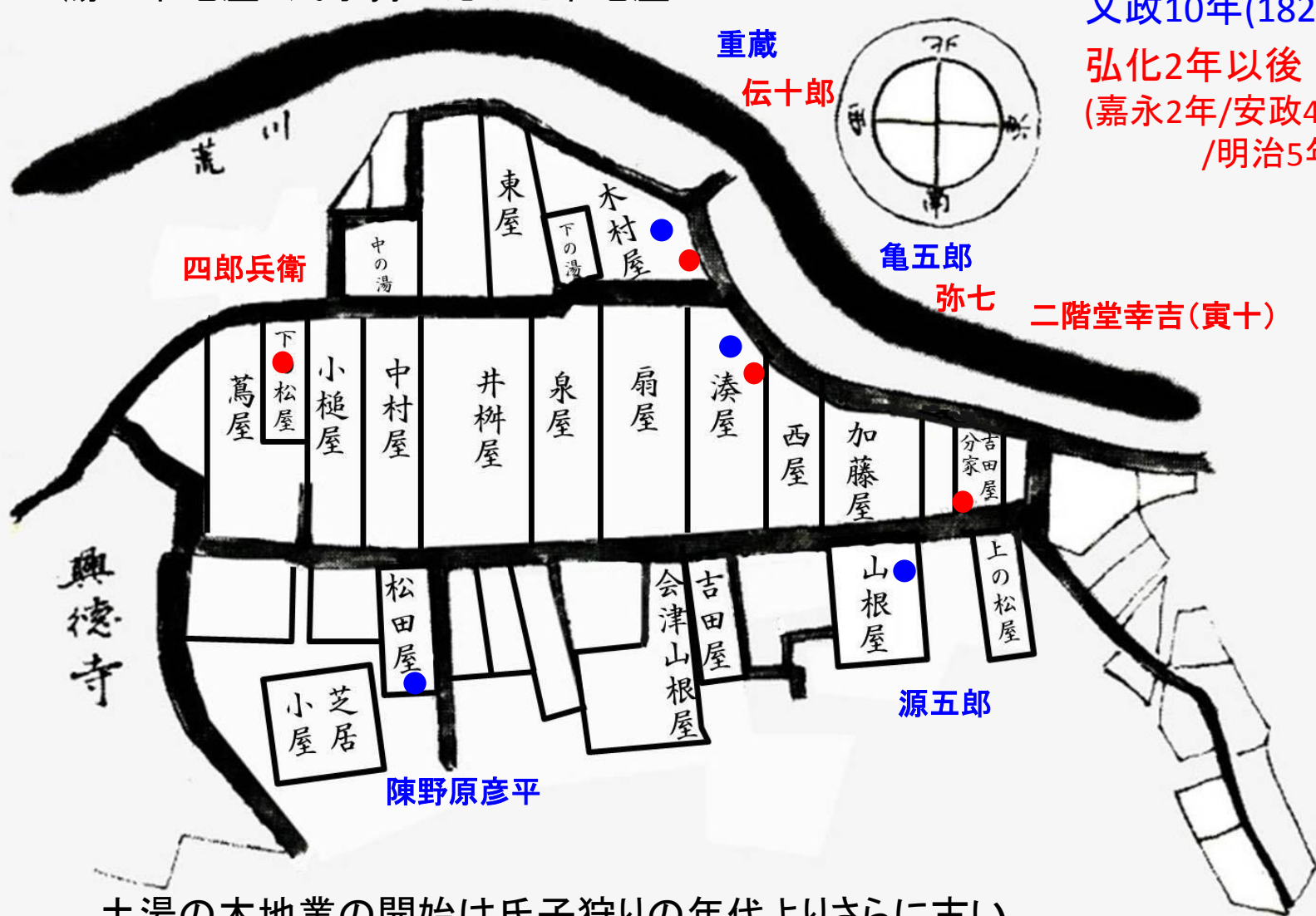
木偶と地藏

橋本 正明
Apr. 19, 2014

土湯の木地屋 氏子狩に応じた木地屋

文政10年(1827)

弘化2年以後
(嘉永2年/安政4年
/明治5年)



土湯の木地業の開始は氏子狩りの年代よりさらに古い

- 山論濟口証文 正徳元年(1711)

「右山近辺土湯村百姓細工小屋ならびに細工臼木屑大分にこれあり、先規より細工木取り入会来る段明白なり」

こけし発生の三条件

- ①木地師が温泉地に定住していて、湯治客の需要を直接感じられる。
- ②**赤物**が伝えられる。⇒ 木地に染料で色を付ける
- ③湯治習俗が一般農民に一種の再生儀礼として定着する。

赤物とは何か

赤物というのは赤い染料を使った玩具や土産物のこと、赤は疱瘡(天然痘)から守るあるいは魔を除けるといってこの赤物を喜んで買い求め、子供のもてあそび物にした。



鴻巣の赤物

木地玩具の赤物は箱根・小田原が先進地



伏見土人形

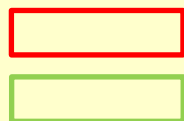


こけし発生 の 三条件

- ① 木地師が温泉地に定住していて、湯治客の需要を直接感じられる。
- ② 赤物が伝えられる。⇒ 木地に染料で色を付ける
- ③ 湯治習俗が一般農民に一種の再生儀礼として定着する。



- 土湯
 - ① 正徳、おそくても文政10年以前に、温泉地に木地師はいた。
 - ② 佐久間亀五郎により小田原・箱根より伝えられる
 - ③ 湯治客も土湯街道を往来する人も多くいた
- 遠刈田
 - ① 温泉地に近接した新地には延享年間ころに木地は伝わっていた。
(延享元年(1744)の氏子駆帳に八宮、横川が応じている)
 - ② 赤物の直接の伝承の記録・聞書きはない(文政8年の金毘羅碑がある)
 - ③ 湯治客も遠刈田温泉に多く入っていた。
- 作並
 - ① 南條徳右衛門(享和元年(1801年)生まれ)が木地を挽き始めた。
 - ② 南條徳右衛門自身が箱根より伝えた。
 - ③ 湯治客も作並に多く入っていた。
- 鳴子
 - ① 小田原の木地師が天保年間に鳴子にやってきて木地を伝えた。
 - ② 小田原の木地師自身が伝えた。
 - ③ 湯治客も鳴子に多く入っていた。



赤物の伝播
こけしの発生

文化

文政

天保

弘化

嘉永

安政

万延

文久

元治

慶応

明治

		土湯			遠刈田				作並		鳴子
		佐久間作兵衛	佐久間龜五郎	佐久間弥七	佐藤円吉	佐藤友吉	佐藤亥之松	佐藤周右衛門	南條徳右衛門	岩松直助	大沼又五郎
文化	元2										
	3										
	4										
	5										
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
文政	元2										
	3										
	4										
	5										
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
天保	元2										
	3										
	4										
	5										
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
弘化	元2										
	3										
	4										
	5										
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
嘉永	元2										
	3										
	4										
	5										
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
安政	元2										
	3										
	4										
	5										
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
万延	元2										
	3										
	4										
	5										
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
元治	元2										
	3										
	4										
	5										
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
慶応	元2										
	3										
	4										
	5										
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
明治	元2										
	3										
	4										
	5										
	6										
	7										
	8										
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
	16										
	17										
	18										
	19										
	20										
	21										
	22										
	23										

辛未

伊勢金毘羅参り

24

23

14

17

21

辛未

赤物の伝播からこけしの発生まで

当初は、箱根で作られていた、独楽や簡単な
木地玩具から始めただろう

佐久間亀五郎や初期の南條徳右衛門の時代



?



こけしの発生には、こけしの「**前駆となるもの (Precursor)**」が必要だった。

こけしの発生には、こけしの「**前駆となるもの (Precursor)**」が必要だった。

遠刈田・作並の場合



木 + けし
||
こけし



木 + おほこ
||
きぼこ

閑話休題 その壺

仙台張子のおほこの頭部
後ろに流れる髪は「つんけ」ではありません

前髪から後ろに流れる髪

- 遠刈田の古い手法(おいち第1、2図)
- 山形や蔵王高湯には残る
- 鳴子の前髪の子の後の髪も同じ

Originは御所人形の水引き手 → 堤土人形
仙台張子おほこ



仙台 堤人形 達磨と子供

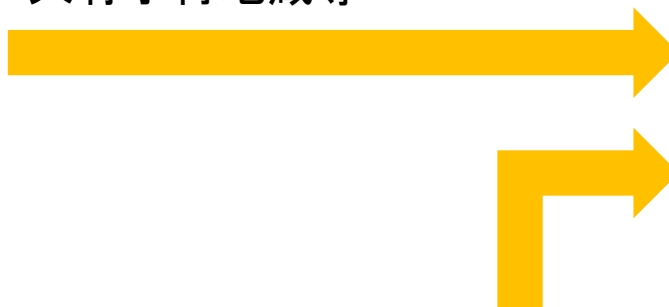


こけしの発生には、こけしの「**前駆となるもの (Precursor)**」が必要だった。

土湯の場合



荒井
大竹子育地藏尊



小浜子守地藏尊

木+でこ (木偶)
||
きでこ

閑話休題 その弐

1. こけしの呼称名は全て、「木」と前駆体 (Precursor) となった人形名との複合語である
2. ただし、これは湯治客側の呼称名である
3. こけしの特質 (Property) を決めたのは湯治客であって木地屋ではない
湯治客は、前駆体の特質をこけしに求めている
(例: こけしが生まれると前駆体の仙台おほこは衰退していった)

	<u>湯治客</u>	<u>木地屋 (工人)</u>
土湯	き+でこ	にんぎょう
遠刈田・作並	き+おほこ (ぼこ) こ+けし	
鳴子	こ+けし	

各地に残る木地屋・工人の製品寸法帳

こけしの表記は、小人形、相人形、中人形、大人形
多くの聞き書きでも、工人は昔はただ人形と言っていたと言う

福島地方における地蔵信仰と習俗

福島には古くから木像に神を憑依させて遊ばせると云う習俗があった。

シンメイさま(神明様)

二

おしらさま



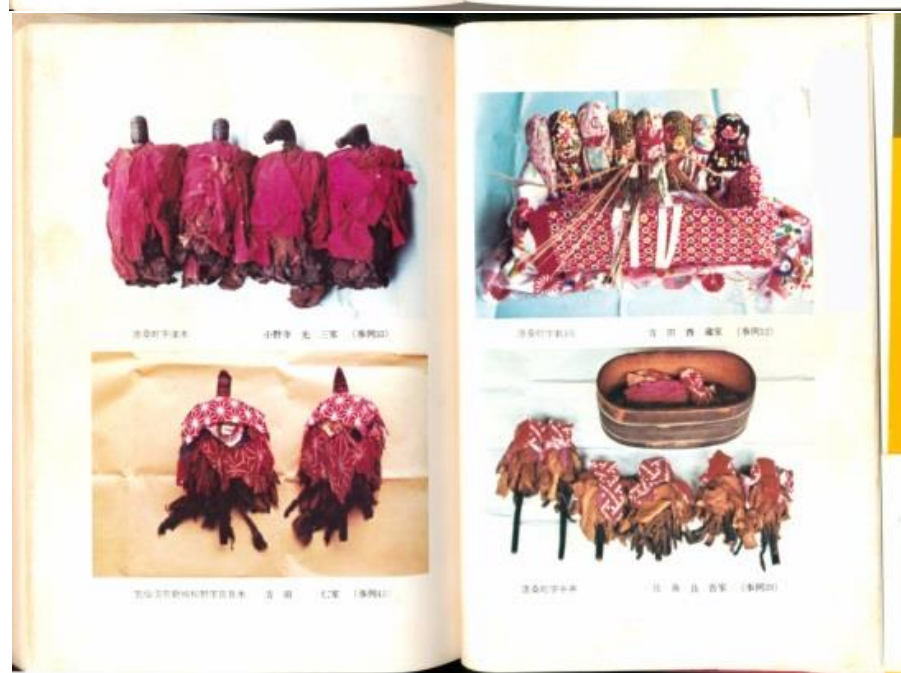
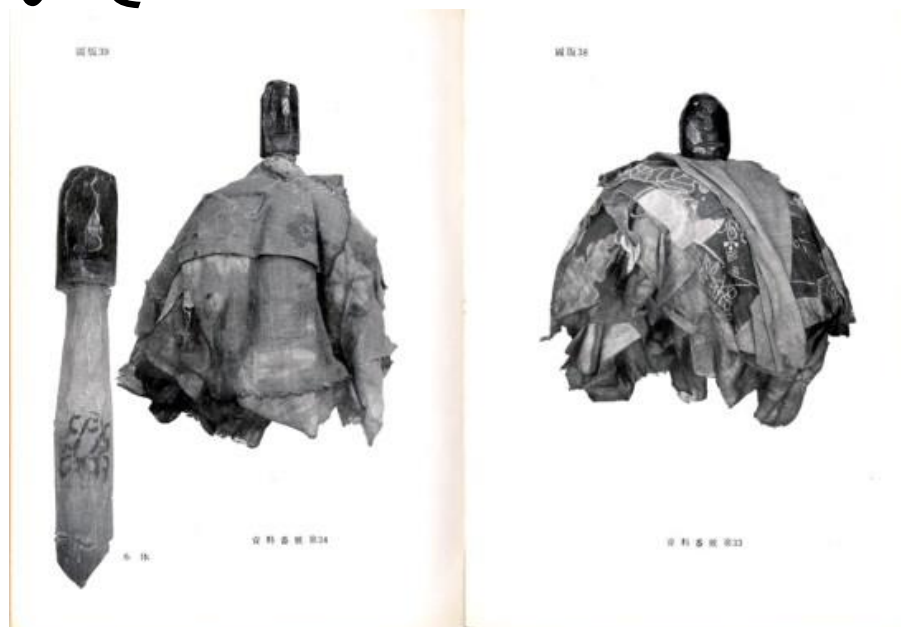
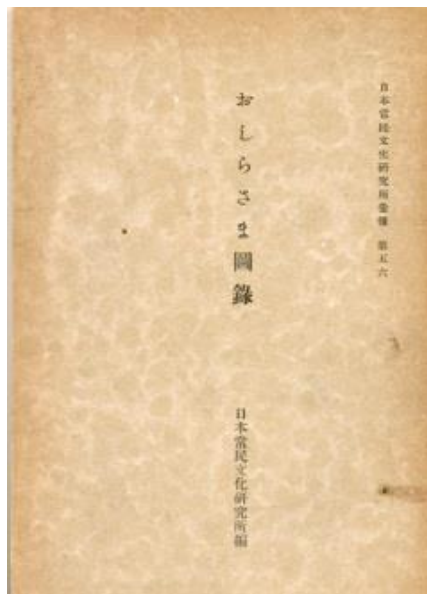
神懸りのための執り物、シンメイ様
(三崎一夫氏撮影)

『磐城枕友』…磐前郡好間村熊野権現社司、吉田定顕

宝暦十一年(一七六一)

山伏又ハ禰宜ノ妻ニモリニアリ。病難災難アル時ハ「笹はたき」トイフヲサスル。神おろしシテ、其吉凶ヲ云フ。神ノ乗り移リタマヒテノ託宣ナリトイフ。頼ミヨリ祈禱ナドスル。常ニ村里ニ勧進ス。男神・女神ノ二神ナリトテ、二体ノ木像ニ祈願者ノアゲタル紅ノキレヲ畿ラモ纏ヒ付タル箱二人レ、家々ノ戸外ニ立、「神明さま新明さま、納たまへ」トイフテ米銭ヲ受通ル。「神明さまをちと遊ばせ申され」トイヘバ、もり子内ニ入り坐シテ、彼ニツノ木像ヲ両手ニ擎げ、スリ合セ居ル。暫クアリテ木像自ラ躍リ潜リ、ハネ廻ル如クニテ、手モタルク休メントスレドモ止マズ。是、神明ノ遊タモフナリトテ、稍暫シテヤム。其時もり子、神明サマ御機嫌ニ遊びタマヒシトイフ。軽ク米銭ヲ納ルナリ。

〈参考〉 おしらさまについて



荒井の大竹地蔵尊

4月第3日曜日が祭礼



オセンタクと呼ぶ衣裳を
まとわせるところまで
おしらさま・神明様と
同じである





大竹子育地藏尊

土湯
♨

地蔵原



小浜万人子守地藏尊

土湯を中心にした地蔵空間



柳田国男も注目した福島地方の子供の遊び

地蔵遊び 地蔵憑け

「日本の伝説」

「こども風土記」



昭和十七年に朝日新聞社

福島県海岸地方の地蔵遊び

一人の子供に南天の木の枝を持たせ、親指を隠して手に握らせ、その子を取り巻いている他の多く子供が、かあごめかあごめのように、ぐるぐる廻って、「お乗りやれ地蔵様」と、なんべんも唱えていると、だんだんにその子はお地蔵様になります。

物教へにござつたか地蔵さま 遊びにござつたか地蔵さま

といって、皆が面白く歌ったり、踊ったりしましたが、もとは紛失物などのあるときにも、この子供の地蔵のことをきこうとしました。

桜井徳太郎「靈魂観の系譜」

地蔵遊び：福島県下阿武隈川流域

一部山形県置賜、仙台地方

地蔵を憑依させる習俗が童戯となったもの

太子型・地蔵型

土湯では太子堂にちなんで作られたとして太子型と呼ぶことが多い。
子授け祈願のためこの型を太子堂に奉納したという伝承がある。
しかし形態は地蔵である。

地蔵の赤いよだれかけ



太子型について
Kokeshi Wikiの解説



よだれかけの赤



地蔵の台座



遠刈田では地蔵型と呼ぶが、阿部常松が伝えたもの

地蔵型には地蔵の台座の痕跡が維持されている
きなきなが祖形となった鳴子の立ち子とは明確に異なる

くびれ型の伝播

土湯地蔵型が原型



栄治が遠刈田で学ぶ
(明治二〇年頃)



常松が青根、遠刈田に伝える
(明治二〇年頃)



常松が蔵王へ伝える
(明治二二年頃)

常松が山形の倉治へ伝える
(明治二二年頃)

謙蔵が山形より伝承
(明治三四年頃)





地蔵型

文六・丑蔵・文吉に伝わったこの型は地蔵型と呼ばれていた。

常松は青根で茂吉について木地の手直しを受けた。

茂吉は文六の義兄にあたる。

文吉の地蔵型

丑蔵は完全な地蔵の型も作った

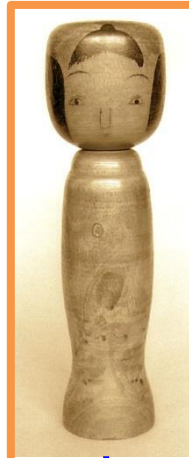


よだれかけの伝播



土湯の地蔵型から
地蔵のよだれかけ
のモチーフを考案

常松



常松が蔵王高湯
に伝える
明治二年頃

松治



長次郎

謙蔵が
山形より伝承
明治三四年頃

倉吉



謙蔵



常松が山形に伝える
明治二年頃

常吉



よだれかけのモチーフ
を遠刈田で得て、飯坂で
地蔵の赤いよだれかけ
を付ける 明治二〇年頃

栄治



岡崎長次郎の「よだれかけ」には西田峯吉さんも言及

「もう一つ指摘したいのは大きいほうの首の周辺というか、襟というか、そこに描いてある模様である。幼児ならば『よだれかけ』というところだろう。これは勝之助も稀に描いている（例えば、『こけしと作者』195頁にある勝之助の9寸）。従って長次郎の独創ではない。斎藤松治も粗雑ながら描いている。温海の阿部常松、常吉も描く。これは一体、どのように理解したらよいのだろう。以前から疑問としていながら、今もまだ未解決のままである。（こけし手帖・第29号）」



岡崎長次郎



梅木修一



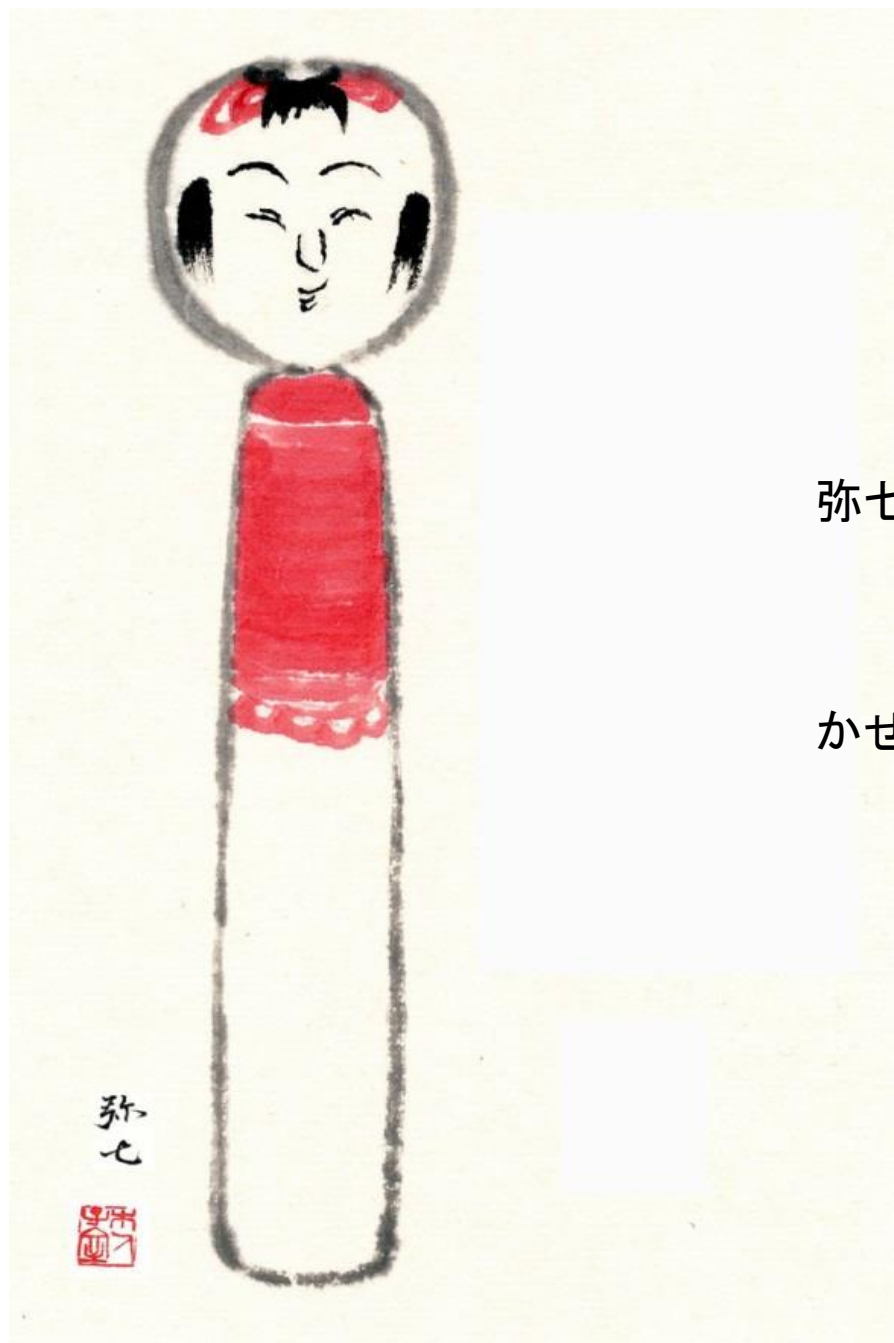
梅木直美

<http://ameblo.jp/yamajii-kokesi/entry-11521466713.html>



これは
フランケンシュタインか
それとも地蔵か？

よだれかけ



弥七が作ったこけしは
こんなものだったでしょうか？

かせは多分なかったかもしれません

付録：海外の木偶



タイ北部の奉納仏

ムンバイの山車人形

Kokeshi Wiki 現代に生きるネット上の「こけし辞典」

Kokeshi Wiki

現代に生きる「こけし辞典」への挑戦です。

[ホーム](#) [サイト内検索](#) [このサイトについて](#) [お知らせ](#) [コケしについて](#) [ご意見・お問い合わせ](#)



Kokeshi Wiki

佐藤護



〔人物〕 明治36年6月1日遠刈田新地の木地業佐藤富治の三男として生まれる。周治郎・直治(小原)・直助は父富治の兄弟であり、護の伯父、叔父にあたる。大正4年小学校卒業後、正式に父富治について木地を学んだ。大正5年父富治が... [続きを読む](#)

カテゴリ: [工人](#), [遠刈田系](#) | タグ: [佐藤護](#), [佐藤富治](#), [佐藤寛次](#), [佐藤栄一](#), [佐藤直助](#), [佐藤基太郎](#), [佐藤護](#), [北国木工所](#), [村上玉次郎](#) | 投稿日: 2014年4月8日 | 投稿者: [hashimoto](#) | 最終更新者: [hashimoto](#) [編集](#)

佐藤忠



〔人物〕 昭和7年4月14日、栗田郡川崎町青根温泉佐藤節治・キツの六男として生まれる。昭和21年刈田郡遠刈田中学校卒業後に節治につき木地修行、主に新型こけしを扱った。なお、旧型は昭和30年頃より挽き始めている。昭和48年... [続きを読む](#)

カテゴリ: [工人](#), [遠刈田系](#) | タグ: [佐藤護](#), [佐藤忠](#), [佐藤節治](#), [佐藤重一](#) | 投稿日: 2014年4月5日 | 投稿者: [santo](#) | 最終更新日: 2014年04月08日 | 最終更新者: [hashimoto](#) [編集](#)

記事一覧

サイト内を検索

[お知らせ](#) [更新履歴](#) [工人検索](#)

太沼みつを	2014年4月14日 更新
毛利専雄	2014年4月14日 更新
佐藤基郎	2014年4月14日 更新
佐藤三治	2014年4月13日 更新
太子型	2014年4月13日 更新
太内一次	2014年4月13日 更新
土温名産の器	2014年4月13日 更新
地蔵型	2014年4月13日 更新
佐藤祐直	2014年4月12日 更新
佐藤憲雄	2014年4月12日 更新

[もっと見る](#)

カテゴリー

[\(+\)](#) 一般項目 (85)

<http://kokeshiwiki.com/>



先輩たちは
「こけしガイド」
片手に産地巡り、
いまはスマホ！